



『もっと！！本野通信』

No.74

諫早市立本野小学校長 永井 洋

平和学習 ～県民祈りの日～

あの日から 80 年目を迎えました

当時のことを記憶されている方も、激減している今、核兵器のもたらす悲しみや、戦争の愚かさをどのようにして伝え、継承していくかが課題となっています。

本校では、平和学習を日常的に継続して行うことができないかという視点から、教育週間（6 月）での学び、県民祈りの日での学び、4 年生時の資料館での学び、人権週間での学びなど、年間を通して平和について考える時間を作っているところです。

私自身も小学生の頃から平和教育を受けてきました。内容は様々かとは思いますが、皆さんも同じかと思います。今年は、自身も被爆しながら、他の被爆者の救護に全霊を傾けた「永井隆博士」について考えてみました。そのきっかけになったのが、右上の博士直筆の「平和を」です。この書は今、本校職員室に掲示されています。なぜこの直筆の書が、本野小の職員室にあるのかははっきりしていないようですが、博士が 1000 枚ほど書いたうちの一つだそうです。以下にいくつかのエピソードを紹介します。



1908	島根県松江市に生まれる	1948	2 畳ひと間の「如己堂」に移る
1928	長崎医大入学	この後、数年は執筆活動などで平和を訴える	
1933	軍医として満州事変に従軍	1951	長崎医大で逝去
1937	軍医として日中戦争に従軍	 永井博士の思いを正確に知ることはできません。しかしながら想像することはできます。わたしたちにできることは、その行動に触れ、思いを想像する。そして、それを継承していくことだと思います。数多くの御霊のためにも…。恒久平和を望みます。	
1945 6 月	白血病の診断を受ける（余命 3 年の宣告を受ける）		
8 月 9 日	原爆被災 頭部動脈切断の大怪我をおして、救護活動に専念する		
8 月 11 日	自宅に暮らしていた緑夫人の遺骨を拾い埋葬する		
9 月	一時危篤状態に陥るも奇跡的に回復		
1946 7 月	長崎駅で倒れ以後病床に伏す		

人のために自分、家族を犠牲にしてまで問い続けたかったことは…。人類の恒久平和ではなかったのでしょうか。人にスポットをあてた伝承活動の重要性を改めて感じました。